



TITLE:

幸島野外研究施設(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

河合, 雅雄

CITATION:

河合, 雅雄. 幸島野外研究施設(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1974, 3: 10-10

ISSUE DATE:

1974-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162536>

RIGHT:

“化学感覚” (1972)

4) ニホンザルとカニクイザルの寒冷に対する生理的反応

大沢 済・登倉尋実・岡田守彦
目片文夫・原 文江

第17回プリマーテス研究会 (1973)

5) サルおよびヒトの hunting reaction に対する theoretical approach

大沢 済・目片文夫
第17回プリマーテス研究会 (1973)

幸島野外研究施設

河 合 雅 雄 (兼)

幸島売却に関する問題は、6月の市議会で売却案が否決され、一応表面上は小康をえた。しかし、地元の観光開発の波は強く、この問題は依然として残っている。また、米島する観光客が多く、しばしば研究上支障を来した、研究条件の確保は、ますます困難になりつつある。

7月の台風によって、干潮時に島と対岸をつなぐ砂州がきれ、海が深くなった。オオトマリの浜に大きく堆積していた砂も少なくなり、満潮時にはコイカダまで海水がおよぶようになった。しかし、まだコイカダ岩は埋まったままである。

今年度研究施設を利用した研究者および学生は、延407名である。

群れの現状

リーダーのセムシとノミの地位は安定しており、群れはよくまとまっている。かつてヒトリザルだったエイ、ナベは完全に群れのメンバーになっている。

1972年3月31日現在の群れ構成 (ソリタリーを含む)
'51年生(♂1), '53(♂1), '54(♂1), '55(♀2), '56(♂1, ♀2), '57(♂1, ♀3), '59(♀3), '60(♂1, ♀1), '61(♀1), '62(♂1, ♀1), '63(♀1), '65(♂2, ♀3), '66(♂5, ♀6), '67(♂5, ♀7), '68(♂5, ♀5), '69(♂10, ♀8), '70(♂4, ♀9), '71(♂7, ♀2), '72(♂3, ♀1)計105頭(♂48, ♀57)

出 産

母親名	アカンボ名	性	出生日	備 考
サカキ	カエデ	♀	6月13日	
ク リ	ケ ラ	♂	6月14日	
フ ジ	—	♀	6月29日	1972年12月4日死亡
ハ マ	マダロ	♀	7月2日	
シ バ	バラハタ	♀	7月18日	1973年2月死亡

死 亡

個 体 名	年令	性	死亡年月
エノキ	16才	♀	1972年8月
オ ゴ	1	♂	〃
キワダ	〃	〃	〃
ネ ズ	〃	♀	〃
フタバ	〃	〃	〃
スズメ	〃	♂	〃9月
ネズミ	〃	〃	〃
フジのベビー	0.5	〃	〃12月
オナガ	1.5	〃	1973年2月
バラハタ	1	〃	〃

1~1.5才のコドモの死亡がめだつ。理由は不明であるが、人為による疑いも濃厚である。

研 究 概 要

1) 生態学的研究

河合雅雄・三戸サツエ¹⁾・山口直嗣²⁾
冠地富士男³⁾

前年度からの継続で、出生、死亡、成長、出産期、性交期等、ボビュレーションの動態に関する研究を行なった。また、体重測定、自然食物リストの作製を行なっている。

2) 社会学的研究

河合雅雄・三戸サツエ・森 梅代

昨年に引き続き、社会変動の継続観察を行なった。とくに、リーダーステータスの確立過程、ヒトリザル化、ヒトリザルと群れの関係について data を集めた。

3) 本施設を利用して研究を行なった所員は、森梅代・江原昭善・大沢秀行 (部門の項参照)、共同利用研究員は、香原志勢・森明雄・岩本俊孝・荻野和彦・木村光伸 (共同利用研究の項参照) である。

サル類保健飼育管理施設

岩本光雄(兼)・千葉敏郎
登倉尋実・松林清明

昭和47年度の本施設 (略称: サル施設) に関する動向としては、建設終了のサル施設棟等の使用の開始と研究

¹⁾ 教務補佐員
²⁾ 文部技官
³⁾ 文部技官